

第6回品川区長期基本計画改訂委員会 議事概要

日時：平成25年12月25日（水）14:00～16:00

場所：品川区役所 議会棟6階第1委員会室

議事次第

1. 開会

2. 委員長挨拶

■委員長

- ・第6回品川区長期基本計画改訂委員会を開催する。
- ・前回の第5回改訂委員会にていただいた意見をもとに、学識委員会議を開催して、長期基本計画改訂素案の修正を行った。
- ・第5回議事概要について、内容について意見がないようであれば、このまま確定とさせていただきます。後日、区のホームページで公開されるのでご了解いただきたい。
- ・最初に事務局から資料について説明していただきたい。

3. 長期基本計画改訂素案および答申（案）について

*事務局より資料3、4について説明

■委員長

- ・資料4の答申（案）には、これまでの審議での意見について、都市像ごとに改訂の視点として表現している。資料3の素案の上に、この資料4を付け、区長に答申することとなる。
- ・前回、委員の皆さんから素案の内容について積極的に意見をいただいたが、全ての意見について反映することはできていない。しかし、委員会で出た意見は公開されており、答申後には区長に出席いただき皆さん全員からご発言いただくことになっている。このような形で本日、答申を行いたい、いかがか。

■委員

- ・パブリックコメントには認可保育園や特養ホームの増設、学校選択制の中止や少人数学級の実施など暮らしや福祉の充実を望む意見が寄せられた。
- ・商店街や住宅街を削り、地域コミュニティを壊す都市計画道路などの道路建設中止を望む意見も多数寄せられた。答申はこうした区民要望に応えられる計画ではないため、答申に反対する。

- ・財政効率を理由に、区民が強く望む暮らし応援策や住宅耐震化など防災対策は区民の自己責任とし、一方で莫大な税金を投入し再開発や道路計画など大企業の利益確保を自治体の役割とする姿勢を改め、地方自治体の本旨である福祉の増進こそ計画的に進めるべきである。
- ・答申案には東京オリンピックの波及効果を期待するとあるが、都民や競技者を主役に東日本大震災や原発災害を大きく解決する中で開催を迎え、開発型ではなく環境にも配慮したオリンピック憲章に基づく取り組みこそ重要と考える。
- ・答申案に反対意見があったことをぜひ記していただきたい。

■委員長

- ・これまでの委員会においても色々な意見が出された。本日提出する答申は素案であり、区には、答申を受けて具体的な策定作業にかかる際、様々な意見があったことに十分留意していただくということで、本日の資料を基に答申としたいが、いかがか。(異議なし)
- ・答申の際に、区の広報がパブリシティのために撮影を行いたいとのことである。了承したいが、いかがか。(異議なし)

4. 答申

■委員長

- ・この委員会は、区長から6月13日に品川区長期基本計画の改訂の素案の作成について諮問を受け、以降、各委員により大変熱心に議論を重ねていただいた。本日、品川区長期基本計画改訂素案の答申をさせていただきます。

*事務局より「品川区長期基本計画改訂素案について（答申）」代読

*委員長より区長へ、答申および素案を手交

■区長

- ・6月から長い期間、皆さまのご熱心な審議に感謝申し上げたい。
- ・本日は来年度予算の政府案の発表があった。内容もさることながら、その決定過程に思いを馳せた。かつて、当時の総理大臣が、「各省庁の司が知恵を絞って物事を進めている」と言っていたが、今回の政府予算も各省庁の官僚が知恵を絞って作成したのだろう。
- ・品川区の予算は、基本構想、長期基本計画、実施計画とブレイクダウンしながら、長期的な視野と総合的観点から予算編成を行っている。来年度の予算は、見直し前の長期基本計画をベースとしながらも、この改訂委員会の議論にも留意して編成作業を進めてきた。

当然、区長としての施政方針や行政の専門性も加味しているが、皆さま方の知恵がそのまま基本計画、実施計画、予算に反映される。その意味では、区民の皆さまの知恵の結

品ともいえる。いただいた答申をしっかりと読み、長期基本計画の改訂について、最終的にまとめていきたいと考えている。

- ・今後の品川区政の指針となる長期基本計画の改訂について、皆さまが積み重ねられたご努力について、改めて感謝申し上げます。

5. 懇談

■委員

- ・皆さんからの意見が素晴らしかった。一方、反対ばかり表明する委員がいたことが残念だった。

■委員

- ・答申に東京オリンピック・パラリンピックのことが加えられた事に関して。先日、第14回品川区中学生の主張大会が開催された。この中でボランティア活動についての発表が印象深かった。オリンピック・パラリンピック開催時には、各競技に選手を輩出できれば素晴らしいが、ぜひ、品川区の会場でボランティア活動もなされるよう、区としても支援していただきたい。
- ・皆さんの色々な意見を聞き、大変勉強になった。

■委員

- ・毎回、毎回、送られてくる資料が厚かったが、皆さんの的確な意見をおっしゃるので、自分も負けずに勉強しようと思った。品川区は職住近接の方が多い。答申にも女性の就業について盛り込むことができ、うれしく思っている。
- ・ICTの活用について、教育分野に述べられているが、ICTは、これから生活のあらゆることに関わることであり、区には、投資の計画を検討してもらいたい。
- ・この長期基本計画は、現在の若者が将来も品川区に住み続けたい、働きたいと思ってもらえる計画をつくることだと思っており、大学生である若い委員の方がいつもの確かな発言をされていたことを大変うれしく思った。

■委員

- ・区長に理解いただき、成年後見制度に力を入れていただいている。ありがとうございます。これからもよろしく願いたい。

■委員

- ・品川はいわゆる工賃仕事の町工場が多かったが、グローバル化の経済の流れの中で、こういった仕事は、工賃の安い東南アジアなどへの移転が進んでいる。ところどころ空き地も目立つようになってきているのも、こういった事も要因ではないか。そうは言っても、産業界では、常に世の中の変化を追い、新しい事にチャレンジしていかなければ生き残れない。今後も多様に変化していく世の中を見極めながら、引き続き必要な支援をよろしく願いたい。

■委員

- ・商店街にとってはタイムリーな改訂だと思っている。来年4月には消費税率が8%に改定され、その後10%への改定も予定されており、商店街にとっては難しい舵取りの時代に入っている。先日、テレビ番組で千葉の湾岸戦争として大規模店舗のイオンモールやららぼーとが5km圏内で競争しているとあった。こういった中で、商店街は埋没してしまうという危機感がある。今こそ、答申にあるとおり、商店街の地域における役割を位置づける必要がある。生鮮三品を扱う商店が地域で衰退している現状があり、その掘り起こしによって地域コミュニティを回復するのが商店街の役割ではないかと考えている。
- ・答申には、地域は観光の資本とも書かれているが、品川区は23区の中でも歴史のある商店街が多い。今後、オリンピックも控え、活気のある商店街として、行政や議会、取り引き先の企業、商店街のトライアングルでこれからの住み続けたいにぎやかな品川区をつくっていきたい。

■委員

- ・第1回の委員会でも述べたが、公助がすぎれば、自ら律する力が弱まると感じている。自助、共助の強化が大切である。ただし、よりよい品川となるには公助も必要不可欠なため、その矛盾については検討を重ねていただきたい。
- ・リーダーシップを発揮できる人材の育成と、そこへの権限移譲によって主体性のある地域づくりが可能となる。自分自身もリーダーシップを発揮して、地域に根づいた活動を続けていきたい。

■委員

- ・広報紙や町会・自治会の掲示板等の情報について熱心に目を通していたつもりだが、その他にも様々な点についてこの機会を通じて知ることができた。
- ・これからの課題は、区民の健康寿命をいかにして引き延ばすかであり、気軽に取り組める健康づくりの機会の提供のために活動している。いろいろな団体と協働しているが、まだ意識が高くなく、参加者がなかなか増えないので、広報等様々な機会を通じて広めたい。
- ・学校避難所を見学した。緊急時の備品は揃っていると思うが、災害発生時の一次医療の備品は不十分なので、早めに準備していただきたい。
- ・委員会での皆さんの活発な議論が参考になった。

■委員

- ・改訂にあたり、策定期間から期間も経過していなかったため、変化がそれほどあるとは思っていなかったが、各委員の話を聞いてたくさん変化があることを改めて認識した。
- ・素晴らしい答申ができたので、ぜひ区政に活かしてほしい。その際には行政が取り組んだ成果について、区民の皆さんに指標等何かわかりやすい形で伝える工夫をお願いしたい。

■委員

- ・品川区で働く者の代表として、区内には多種多様な品川区内で働く昼間区民が多くおり、より良くしようという気持ちは同じであり、そういった区民と協働し場面場面で品川区政の中に取り入れていただきたい。

■委員

- ・発達障害について本人と家族を支援する活動を続けている。スーパーデザイナーのアレクサンダー・ゲルマン氏が、今後の社会の動向について、除外されていた文化を取り込んだ時代設計になるであろうと予言している。著名な方々が発達障害を持っていると公表しており、そういった方々が持っている刺激的で豊かな文化を理解し、取り込んでいくことが時代を先取りしていくことになるのではないかと考えている。
- ・先日ホノルル・マラソンに参加し、時間制限がないため完走することができた。ホノルルでは、まちをあげて歓迎してくれた。品川区でも、オリンピック・パラリンピック大会を見据え、誰でも参加できるイベントを開催してもらいたい。

■委員

- ・シニアの活動拠点である、いきいきラボ関ヶ原の運営を受託し活動している。歳を取ることは避けられないことであるが、いつまでも元気に暮らせるよう、元気な高齢者をますます継続して元気にし、医療や介護に関する支出を抑えていくことを区民が意識してもらえるよう活動している。200人強の高齢者が活動しているが、施設が1か所しかない。素案にも「シニアの多様な活動への支援」と記載している。同じような施設が各地域にあれば、効果があがってくるのではないかと考えている。

■委員

- ・青年を代表するつもりで率直な意見を述べてきた。素晴らしい機会をいただき感謝している。
- ・区民との協働はNPOやボランティアに目がいきがちだが、そこに参加していない青年の声に耳を傾け、青年が関心を持ち、参加しやすい施策を行っていただきたい。

■委員

- ・素案は多岐にわたるため、区の職員一人ひとりが理解してくれるか不安である。以前、区役所に登録団体の申請の相談に行った際に、子どもを連れて窓口を行ったりきたりと、たらい回しにあったことがある。連携に問題があるのか、職員の理解が足りないのか定かではないが、せっかくよい改訂基本計画ができたので、しっかり活かせるようなシステムづくりと職員の指導をしてほしい。

■委員

- ・応募の際に、「ここに生まれ育ち、ここに帰るまち品川」ということで応募した。大井に生まれ育ち一貫してここに住んでいる。子どもたちに良い原体験を与えるのが大人の役割で、子どもたちが成長して品川区に帰ってくることが大事である。子どもの教育、生涯学習、文化財などの取り組みに今後も力を注いでいきたい。
- ・区職員の皆さんにお願いがある。組織には人事異動が必ずあるが、培った情報が引き継

がれないのはもったいない。ぜひ引継ぎをしっかりと行ってほしい。職員には区民も結構いるので、大いに活躍してほしい。

- ・改訂により、良いものがさらに良いものになったと感じている。今後とも協力していきたい。

■委員

- ・幼稚園児、小学生の母として参加した。6月にオープンした子育て交流サロンではスタッフの一員としても活動しており、乳幼児のママの声を代弁しようと毎回発言した。とても貴重な体験となり感謝している。町会や商店街の委員の話聞いて、子どもと商店街に買い物に行って、会話のある買い物をしたり、町会の活動、防災訓練などに積極的に参加をするようになり、今まで、あまり関心が無かったことを反省した。
- ・子どもがのびのび成長できる公園に関しての発言も答申に盛り込まれ、今後、子どもが生まれて育っていくには品川区が良いところだと子どもたちにも思ってもらいたい。7年後のオリンピックでは、高校生になっている子どもとシャトルバスの案内係ができたらと思っている。

■委員

- ・小学生と中学生の4人の子どもの親として、よい環境で育てたい、社会に貢献できる大人に育てたいという思いが強く、その実現のためにと参加した。自分のような区民一人ひとりの小さな意見も吸い上げてくれる区は素晴らしいと感じた。ぜひ、自分の周りのママ達に伝えたい。
- ・子どもたちが育つには、あらゆる人の力が必要だと思う。人生の先輩として高齢の方、男性が子育てに関わる立場として企業の方、町会や青少年対策地区委員会の方、学校の方、区職員の方には、今後も子どもたちに目をかけてほしい。
- ・子どもの通う中学校で60周年の式典があり、校歌を女性2部男性2部の4部合唱していた。ここまで育ててくださった学校や地域の方に歌でお礼を伝え、それが評価されることが子どもの自信につながっている。7年後にはオリンピックがあるが、品川に腰を据えて7年間一つのことにまい進している姿も見たい。

■委員

- ・団塊世代が5年後には皆高齢者になるという話があったが、今回はその一員として参加した。荏原地区のタウンミーティングに参加したことをきっかけとして、長期基本計画がスタートして、様々な協働の場に参加するようになり、その流れで改訂委員会にも応募した。
- ・品川に住み続けたいということは、自分の住んでいる町会のある地域に住み続けたいということである。町会の会長、NPOでの活動、高齢者クラブの会員、とわたし自身が様々な側面を持っているが、矛盾していない。地域の中でもいろいろな団体がそれぞれの持ち味を活かして協力しあうことが望ましい。元気な高齢者も担い手として地域で活躍してこそ、地域の方々とともに住み続けることが実現できる。

- ・青少年をはじめ様々な方が地域の中で活躍してもらえる場はたくさんある。町会・自治会が地域の中で頼りにされる存在として、幅広い活動ができる受け皿として、積極的に取り組んでいきたい。

■委員

- ・行政にあれもこれもやって欲しいというのではなく、自分たちで何ができるかという前向きな意見が多かったと感じた。一方で、必要な部分については行政が取り組むというメリハリのある意見が多く出ていたのではないかと。
- ・5つの都市像の実現をお願いするとともに、基礎自治体としての基盤の確立にはより一層取り組んでほしい。平成12年度の都区制度改革から13年経過したので、ぜひ、これからより一層都に働きかけて改革を進めてほしい。

■委員

- ・有意義な会議だった。分野を代表しての各委員の言葉には力があつた。各回とも資料が丁寧で、その資料を活かした発言となった。
- ・昨今は、パソコン等に向かいインターネットで意見を述べるような時代であるが、フェイス・ツー・フェイスで意見を交わすことが非常に大切であること改めて再認識した。
- ・職員、そして議会がこの答申をどう活かしていくが問われていると思う。

■委員

- ・充実した素案ができたと思うが、盛りだくさんの部分もある。具現化、予算化していく段階でどこから手をつけていくのか、どこまで実施するのかなど具現化する段階で区民が抱くであろう疑問にどう対処するのかについて、分かりやすく丁寧な説明が常に必要になってくる。
- ・議会としても実現に関しては責任があることを踏まえ、今後とも発言していきたい。

■委員

- ・改訂前の長期計画の策定にもかかわったので、今回は非常に興味深かった。各委員の熱心な討議の結果を真摯に受け止めて、これからの区政運営のベースにしてほしい。
- ・区民の自治体に対する意識が非常に変わってきている。答申にも「協働」という言葉が何度も登場するが、協働事業だけでなく、それぞれの施策・事業においても区民の意見に耳を傾け、ともに地域をつくっていく文化を行政の中に醸成してほしい。

■委員

- ・今の時代に沿った計画を盛り込むことができた。「限られた財源の中で優先順位を明確に」と答申にあるが、東日本大震災を踏まえ、区内の防災対策にも有効な政策が必要だと考える。
- ・中学生の子どもが怪我をしており、子ども自身が、松葉杖をついて学校に通う中で、道路上の自転車の問題など障害者の方や車椅子の方の不便さを身をもって感じ、また、地域の方々の親切さを痛感している。根底にある地域の力を盛り上げていける施策を行っていく必要がある。

■委員

- ・社会経済情勢が大きく変化し、区民の生活実態は、賃金引下げや非正規雇用化、年金引下げ、消費税増税と区民の所得が奪われている。一方、資産家や大企業の税負担は軽くしている。政治が格差と貧困を拡大している。国会では秘密保護法など民主主義を壊す間違った政治の流れとなっている。品川区にはこうした流れと対決し、区民の暮らしと平和の防波堤の役割こそ発揮してほしい。
- ・原発再稼働や秘密保護法への反対運動、品川区役所前で一か月以上に渡って行われている29号線道路建設中止のアピール行動や住民合意のない駐輪場設置中止の取り組み、特養ホームの増設を求める運動等、住民が主人公の政治こそ本流である。区長は区政の主人公は住民であることを真摯に受け止め、29号線等の多数の住民が反対する計画を推し進めることは、民主主義の社会に反すると言っておきたい。

■委員

- ・今回、様々な論点に関し、自分なりに調べてみたが、いくつか微妙な論点はあるが、今回の素案は基本的にまとまっていると思う。しかし、これで将来がバラ色ということではない。現在はこれが最適な案であっても、ひとつひとつはぎりぎりの判断の積み重ねの結果である。したがって、そのひとつひとつが覆されると全く違う判断になるということ踏まえ、今後の計画を策定していくべきである。
- ・素案に記載されていることを全て実行すべく施策に落とし込むとなると、非常に行政も議会も区民にも負担が大きいものになる。
- ・行政だけでなく、議会や区民、区内で働く者など関わる者すべての人々が、案を実現できるよう協力し、小さなことから積み重ねていけると良い。

■副委員長

- ・大変素晴らしい会議だった。積極にご意見をいただくにつれ課題が多面的になり、だからこそ計画が総花的にならざるを得なかった。施策化する上で、どこにポイントを絞るかが重要になる。施策化の過程で改訂の主旨について区的全職員が共通認識を持ち、どういう形で具体化していくのか、区民にどう還元するのかという議論が次の段階で必要だと思うので、ぜひ、お願いしたい。
- ・福祉分野では品川区は先進自治体である。福祉、健康、障害の課題はぜひしっかり取り組み、先進性、モデル性を十分発揮してもらいたい。

■委員長

- ・品川区は23区のリーダーだと思う。福祉分野に加え、教育も品川区と言われ、商店街や地域活動も活発である。この委員会において前向きな議論ができたのも品川区ならではの思う。
- ・5年前の長期基本計画策定において理念に国際都市を掲げたが、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、先取りしていたと言える。しかし、オリンピック・パラ

オリンピックの有無にかかわらず、国際化していく環境の中で地域がどう変わっていくかという問題として捉えると社会として変わっていかなければならないことが様々ある。バリアフリーやハラールなど、社会的包容力を地域としてつけていく変化が必要になる。

- ・新しい要素としては災害に強いまちづくりがあげられる。密集市街地が残されているのは東京都全体の問題である。構造改革は必要であったと思うが、その中で貧困や雇用問題などが生じてきた。これまでの基礎自治体の主眼となる政策でなかったものについても対応が求められる時代になった。この新しい課題にも品川区がリーダーになって取り組んでほしい。
- ・委員会での意見を盛り込んで素案を作成したが、改訂計画と言いながら、5年間の状況変化を受けてかなり違った新しい計画になったと思う。受け止める区は大変だと思う。覚悟して臨んでほしい。

■ 区長

- ・積極的に発言される方々と会議を運営するには、さぞご苦労があったことと、委員長はじめ学識委員の方々に心からお礼を申し上げたい。
- ・職員に読ませるようにとの指摘をいただいたが、肝に銘じてそうしたい。
- ・子育てのためにあらゆる人の力が必要だということとも印象深い。子育てと言えば、学校や家庭、福祉施設を考えがちだが、企業、商店街など区内の様々な力が必要だと改めて感じた。区内には企業の方々が集まるCSR協議会がある。分科会をつくりテーマ別に話し合う中で、教育などについてもお聞きしたいと思う。
- ・除外された文化を取り入れていくというお話があった。難しいことだが、社会的包容力も、これからの自治体が追求すべきひとつのテーマだと思う。
- ・3月に第一回定例会が開催される。長期基本計画の改訂について議論がなされると思っている。一同しっかりと読み込んで準備したい。議会の皆さまにもご理解とご協力をお願いしたい。
- ・皆さまのご尽力に、心から敬意を表し感謝申し上げます。

6. その他

■ 事務局

- ・答申を基に区として長期基本計画の改訂と新たな実施計画の策定を行う。日々情勢が変化しており、時勢に合わせた記述の変更が生じる場合もあるので、あらかじめご了承ください。
- ・改訂の初年度となる平成26年度について、現在予算編成作業を行っている。これから議会の審議を経て決定される。
- ・計画書の完成は、年度内を目途に作業を進めている。

7. 閉会

■委員長

- ・各界の委員によりそれぞれの状況変化について、多数のご意見をいただいたと感謝している。
- ・品川の自治は、立場を超えて議論できることにある。5年前の策定委員会の最後に、きちんとフォローしてほしいという意見が出たと記憶している。改訂にあたって策定時に関わった方が多くおり、素晴らしい議論ができたと思う。

以 上